（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（南信州地域）

# 令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---|---|
| 事業名 | 阿智村全村博物館　地域資源活用事業 |
| 事業主体<br>（連絡先） | 一般社団法人　阿智村全村博物館協会 |
| 事業区分 | (6)産業振興、雇用拡大　ア　特色ある観光地づくり |
| 事業タイプ | ソフト・ハード |
| 総事業費 | 3,339,750　円（うち支援金：　2,518,000　円） |

## 事　業　内　容

1. 古民家つぼや改修による「食」事業
キッチンを修繕し、営業許可を取得した。地域の食材や地元の人たちによる食体験の提供を行った。
2. 農村記録写真の村　写真アーカイブ事業
ネガフィルムをデジタル化する手法をワークショップ形式で教わり、村内に残るネガフィルムのデジタル化を実施した。デジタル化した写真のうち24点を写真展で展示・公開した。



【ネガデジタル化ワークショップ】

## 事　業　効　果

①営業許可の取得により、地域住民がつくる料理を提供できる環境を整備し、地域住民が主体的に活動し、活躍できる基盤を構築した。

②餅つき体験や和菓子づくりなど、地域の特色や伝統的な食文化を体験として提供することで、地域の魅力を来訪者に伝える機会を創出した。

③ネガフィルムデジタル化のための機材と人材育成を行い、地域に残る写真資料を後世に残す体制を整備した。

【目標・ねらい】

①地域の人がもつ食に関する知恵や技術を発揮できる基盤をつくる
②地域の食文化を活かした食事や体験を観光客へ提供する。
③村内にあるネガフィルムをデジタル化し後世に残す
④多くの人に取組みを知ってらえるよ

※自己評価【　B　】

【理由】
当初予定していた事業についてはおおよそ実施することができ、想定通りの効果を得ることができた。今後は今回の事業を基礎として、大きな成果が得られるよう取組みを進める。

## 今後の取り組み

シェアキッチンの運用ルールを確立し、地域住民が持つ食に関する知識や技術を発揮できる場を整備する。また、食に関する体験プログラムの開発を進め、地域の「食」の魅力や可能性を掘り起こすとともに、古民家つぼやの利用促進を図る。

ネガフィルムのデジタル化については継続的に取り組み、地域の歴史を後世に継承する取り組みをすすめる。あわせて、紙焼き写真のデジタル化にも段階的に取り組む。また有償でのデジタル化サービスの運用を目指す。加えて、阿智村出身の写真家・熊谷元一の農村記録写真も活用し、写真資源を活かした地域づくりを推進する。

これらの取組により、写真をはじめとする多様な地域資源を組み合わせ、古民家つぼやを村内外から人が訪れる交流拠点として運用する。また、駒場エリア及び阿智村全体における昼間の観光コンテンツの充実を図り、地域資源を活用した持続可能な組織運営の実現を目指す。